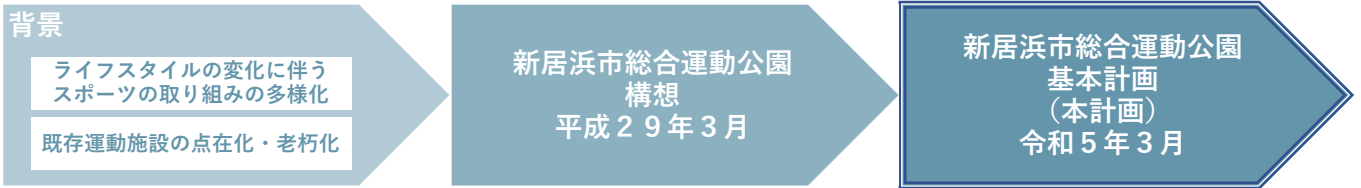


■ 基本計画の策定について

新居浜市では、生涯を通じて心豊かな生活を送ることができる「健康」へのニーズの高まりや運動・スポーツに対する目的や内容の多様化により、市民一人ひとりのライフスタイルに応じた環境づくりと生涯を通じた運動・スポーツに親しむ機会と場所づくりの施策を展開しています。一方で、本市の主要な運動施設については、建設当時は十分な規模・機能を有していたものの、市民一人ひとりのライフスタイルの変化に伴うスポーツへの取り組みの多様化や施設の老朽化等により、現在では市民ニーズへの対応が困難な状況となっているものもあります。また、各運動施設が市内に点在しており、利用者にとって不便な場面も生じてきています。

こうした背景を元に平成29年3月に策定された新居浜市総合運動公園構想を受け、公園全体及び公園内に配置を予定する公園施設等について計画内容や、その事業費について検討を行い、新居浜市総合運動公園基本計画として取りまとめました。



■ 候補地の選定について

基本構想で選定された平尾丘陵地の範囲から、計画候補地として大きく3つの候補地を抽出し、比較検討を行いました。以下に各候補地の位置を示します。

■ 各候補地の位置



図-1 計画対象地（航空写真）

候補地比較

比較検討の結果、課題解決の難易度が比較的低い、候補地 A を計画候補地として抽出しました。

表-1 候補地比較

位置	候補地 A	候補地 B	候補地 C
① 造成計画	【△】 造成にかかるコストを比較的抑えることができる	【×】 計画面積を極力縮小した場合でも他案に比べ、造成コストが最大となる	【○】 3案の中では最も切盛土量が抑えられる
② 利便性	【○】 ・都市計画道路から最も近い ・出入口複数箇所設置が可能 ・車両動線のループ化など周辺との接続性も比較的高い	【×】 ・都市計画道路から比較的近い ・レッドゾーン周辺の接続道路整備が必要 ・周辺との接続性に乏しい	【×】 ・都市計画道路から最も遠い ・接続道路を改修する必要がある ・周辺との接続性に乏しい
③ 周辺環境	【△】 ・鉄塔に影響のない造成設計検討や鉄塔の移設補償や計画面積縮小の検討が必要である ・レッドゾーン・イエローゾーンへの対策範囲は比較的小さい	【△】 ・鉄塔への影響を回避することができる ・一部レッドゾーンへの干渉があるため、レッドゾーン対策や計画面積縮小の検討が必要	【×】 ・鉄塔への影響を回避できる ・候補地範囲の大部分がレッドゾーン／イエローゾーンに指定されており、防災上の対策が懸念
④ 敷地拡張性	【○】 ・現状では民間施設、清掃施設などに挟まれ限定的ではあるが、他案と比較して将来的に拡張できる可能性がある	【△】 ・敷地拡張には原則大規模な造成が必要となり、費用面(工事費・用地費)から敷地拡張性は困難である	【△】 ・敷地拡張には原則大規模な造成が必要となり、費用面(工事費・用地費)から敷地拡張性は困難である
⑤ 課題解決の難易度	【周辺施設への影響が課題】 難易度:中 造成計画、周辺環境の面において、他案より劣るが、利便性、敷地拡張性においては他案より優れており、比較的課題の難易度は低いと考えられる	【残土処分が課題】 難易度:高 造成計画、利便性において他案より劣っており、これらの課題解決は困難である	【土砂法への対応が課題】 難易度:高 造成計画に優れるが、利便性・周辺環境において課題を有しており、これらの課題解決は困難である
評価	○(×…0)	×(×…2)	×(×…2)

※ レッドゾーン :土砂災害特別警戒区域
イエローゾーン :土砂災害警戒区域

市民アンケートにおける要望状況

令和4年1月から3月にかけて市民アンケートを実施しました。アンケート結果から主な意見として下記のような意見が挙げられました。得られたアンケート意見については基本計画への反映を検討しました。

交通手段

- 路線バスの乗り入れなど、公共交通のアクセス性の確保・充実

利用時間

- 社会人世代が参加できるような、土・日・祝日や夜間などに利用できるスポーツ施設

料金設定

- 市内・市外などによる料金設定の差別化
- 子どもは無料で利用できる（年齢による料金設定）
- 毎日利用できるような安価な料金設定
- 無料

施設整備水準

- 適切な料金設定で、十分な機能と快適性を持った施設
- 維持管理しやすい十分な機能を持った施設（地元住民、スポーツ団体が利用しやすい）
- スポーツに興味をもつ入口となる施設や本格的な利用に適した施設など、利用目的により利用者が選択できるよう水準ごとに施設を複数設ける。

その他の利便性

- 子どもの頃からいろいろなスポーツが体験できるようなイベント
- スポーツが苦手、運動が嫌い、体力に自信のない人でも気軽に運動を楽しめるコンテンツ
- 費用がかからず参加できるスポーツクラブ
- 施設の利用特典等の付与
- 合宿ができる施設
- スポーツをする時に子どもを預けられる託児所のような施設
- 商業施設やフードコート等の併設

■ 整備コンセプト

■ 公園計画に必要なコンセプト

公園は、一般的に様々なアクティビティの場として多様な利用者が思い思いの活動を行うことができる空間であり、多種多様な利用を支える公園づくりが必要です。そのためには、様々な公園づくりの視点などを検討し、整備を進める必要があります。そこで本計画では、次の4つの公園の目標像（コンセプト）を設定しました。

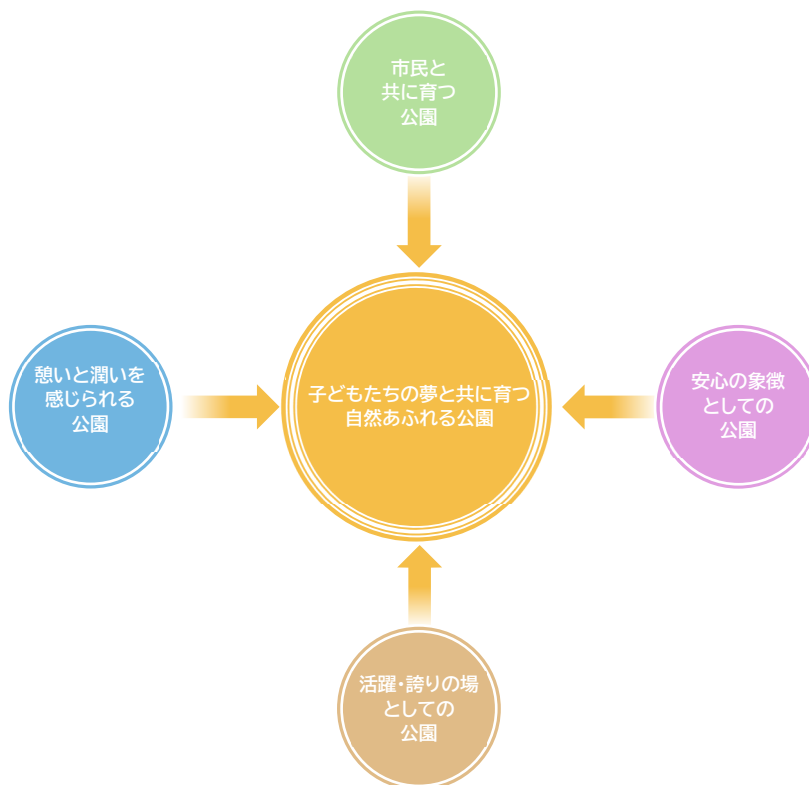


■ 新居浜市総合運動公園の整備コンセプト

4つのコンセプトを踏まえ、スポーツ、健康増進、自然、憩い、防災等などの観点から、多様な利用者がスポーツ等で互いに時間を共有できるような公園として整備することを目標に、現状や課題、総合運動公園としての将来を踏まえて、次の整備コンセプトを検討しました。

子どもたちの夢と共に育つ自然あふれる公園

(コンセプトイメージ)



■ 整備方針

総合運動公園の整備方針として、4つの面について下記のとおり検討しました。

- 施設整備面： 利用者ニーズを満足し、これからのスポーツ社会に対応した公園づくり
- 空間形成面： 新居浜市の新たな顔として魅力のある公園づくり
- 環境・景観保全面： 計画地の持つ環境や景観・資源を活かした公園づくり
- 防災面： 災害時の拠点として活用可能な公園づくり

■ 施設配置計画

■ ゾーニング

コンセプト・整備方針を踏まえて、ゾーニング及び動線計画を以下のとおり設定しました。なおゾーニングについては、防災面についても考慮し、平常時のゾーニング及び災害時のゾーニングの両面について設定しました。

| ゾーニング（平常時） |

表-2 ゾーニング（平常時）

ゾーンの種類	概要	ゾーン内への配置を想定する主な施設	備考
エントランスゾーン	園外からの導入部として、修景効果を持たせた園路や駐車場などにより、園内中心部や競技場への誘導を図っていくゾーン	エントランス広場、ゲート、管理事務所	
駐車場ゾーン	各ゾーンに隣接して、施設への誘導を補助する駐車場、駐輪場を計画するゾーン	駐車場、駐輪場	
多目的ゾーン	運動施設利用者以外の利用者による多様な利用ができるゾーン	多目的広場、遊具広場	
運動施設ゾーン	運動施設を中心に配置するゾーン	総合体育館(メイン)、弓道場、陸上競技場、野球場	敷地面積の60%以下
(その他)	各種動線、ジョギングコース、トイレ、調整池など	(適宜配置)	

| ゾーニング（災害時） |

表-3 ゾーニング（災害時）

防災公園種類	ゾーニング概要
防火樹林帯ゾーン	・防火樹林帯等を主体とするゾーンであり、主として公園の外周に設定する。
避難広場(一次的避難生活対応)ゾーン	・避難広場を主体とする避難スペースのゾーンであり、市街地延焼火災時にも安全性を確保する観点から、公園の中央に設置し、必要に応じ周囲に防火樹林帯ゾーンがあること。 ・一部は避難者の一時的避難生活のためのスペースとして利用される。避難者に関わる救援活動スペースを除き、救援活動対応ゾーンとは重複しないことが望ましい。
救援活動対応ゾーン	・消防・救援、医療・救護活動、その他の諸活動のスペース等を主体とするゾーンである。スペースの有効活用や施設の効率的な活用を図るため、避難広場ゾーンと防災関連施設ゾーンとに隣接、または一部重複させる。 ・避難者に直接関わる医療・救護等の活動以外の諸活動スペースについては、空間的に占用して利用できるゾーンとすることが望ましい。 ・緊急車両の進入等、公園外部との関係が強いため、主要な入口に近いことが望ましい。また、緊急用ヘリポートを含むゾーンとする場合は、占用的な使い方が可能なゾーニングとする。
防災関連施設ゾーン	・水関連施設や非常用便所、及びその他の防災関連公園施設を整備するゾーンであり、避難広場ゾーンの周辺部に設定する。 ・ただし、分散して設定することや、特にゾーンとして設定せず、施設配置のみを行うことがある。
その他	(今後必要に応じて防災機能を持つ施設の配置を検討)

施設規模の設定

公園施設の内、主要な施設である総合体育館、弓道場、陸上競技場、野球場については、その利用状況・大会対応などから概略機能・規模を検討しました。なお具体的な建築レイアウトについては今後予定している建築設計にて引き続き検討を行っていきます。

表-4 主な運動施設の機能・規模の設定

	イメージ	主な準用規則・基準	機能・規模	備考
総合体育館		各施設の配置を満足する規模設定	アリーナ、観客席(4,000～5,000人程度)、サブアリーナ、トレーニング室、重量挙げ練習場、柔剣道場、屋内ジョギングコース、キッズスペース(延床 16,500㎡程度想定)	—
弓道場		全日本弓道連盟「弓道競技規則」準拠 (連盟大会の開催に対応)	近地的場(28m) 遠地的場(60m) 6人立以上の間口 管理施設を想定	南向き
陸上競技場		日本陸上競技連盟規則「第2種公認」 インフィールドでのサッカー、ラグビー(公式寸法)	第2種公認 その他機能(更衣室、シャワー室など)を想定 芝生広場に補助レーンの設置を想定	方位は長軸を南、または北北西～南南東が望ましい
野球場		日本野球機構「公認野球規則」 プロフェッショナル野球クラブの施設規模に準拠 公式競技に対応したナイター照明	本塁から左右両翼 99.058m 本塁から中堅 121.918m 観客席 8,000人程度(既存市営野球場参考) 外野芝生席を想定	方位はホームベースを 北～北北東(競技者主) 西南西～南西(観衆を主) に設けることが多い
合宿施設	—	大会、練習試合等での合宿可能な施設	収容人員 50人程度を想定	—
ジョギングコース	公園内及び外周を利用したコース	—	幅員 W=3.0m、 1周 L=約1km(一部歩道利用)	中学駅伝競走大会開催を想定

施設配置の考え方

各施設の配置にあたっては以下の考え方を中心に施設配置を計画しました。

出入口・周辺道路について

- 出入口を複数箇所設け、災害時を想定した補完性を確保する
- 既存の周辺道路を拡幅し、バス・消防車等の通行に対応したアクセス路を確保する

園内アクセス・駐車場について

- 各施設間は距離・高低差があるため、園内を車両でアクセスできる主園路を配置する
- 駐車場を出入口や各施設周辺に確保し、各運動施設へのアクセス性を高める
- 駐車場台数については小型用駐車ます常設 505 台程度とし、イベント時対応としてエントランス広場・多目的広場を臨時駐車場として活用し、小型用駐車ます最大 742 台程度を確保する
- イベント時の大型バス利用を考慮し、多目的広場内に大型バスが 24 台程度駐車できるスペースを確保する
- 駐車ます利用については、乗り合わせによる来園のお願いを周知するなど、ソフト対策も含めた対応を図る

各施設について

- 地形状況や周辺道路との接続、造成形態を踏まえ、各運動施設の施設規模（寸法）を満足できる範囲に各運動施設を配置する
- 各運動施設が利用者に使いやすく、平常時・災害時ともに機能的に活用できる配置とする
- 陸上競技場と体育館の配置は、災害時利用等を踏まえ併設する
- 南側斜面の配置を活かした眺望を楽しめる多目的な広場を分散して配置する
- 敷地の外周は森林帯を確保し、一定の緑環境を保全しつつ利活用を図り、今ある自然環境と調和した公園づくりとする

事業計画

概算事業費

表-5 概算事業費

項目	主な整備内容	金額(千円)	備考
調査設計費	各種調査、各種設計	1,084,000	
用地取得費	用地費、補償費など	953,000	
工事費	造成費	5,036,000	
	外構整備費	外周道路、公園施設など	3,382,000
	運動施設整備費	6,185,000	基本構想想定規模(物価変動考慮)
	弓道場	276,000	基本構想想定規模(物価変動考慮)
	陸上競技場	1,579,000	基本構想想定規模(物価変動考慮)
	野球場(照明除く)	1,842,000	基本構想想定規模(物価変動考慮)
	野球場照明	790,000	
	宿泊施設	511,000	
	管理事務所	136,000	
総事業費(税込)		21,774,000	

上記金額は現時点での検討内容等に基づく概算事業費であり、今後の物価上昇や設計内容の変更により金額が変動する可能性があります。

事業スケジュールの検討

構想時の整備スケジュール(案)を基に必要な作業工程について事業スケジュールとして示します。

なお、施設の整備順序については、整備費用・補助制度・耐用年数等を考慮しながら段階的に進めていきます。

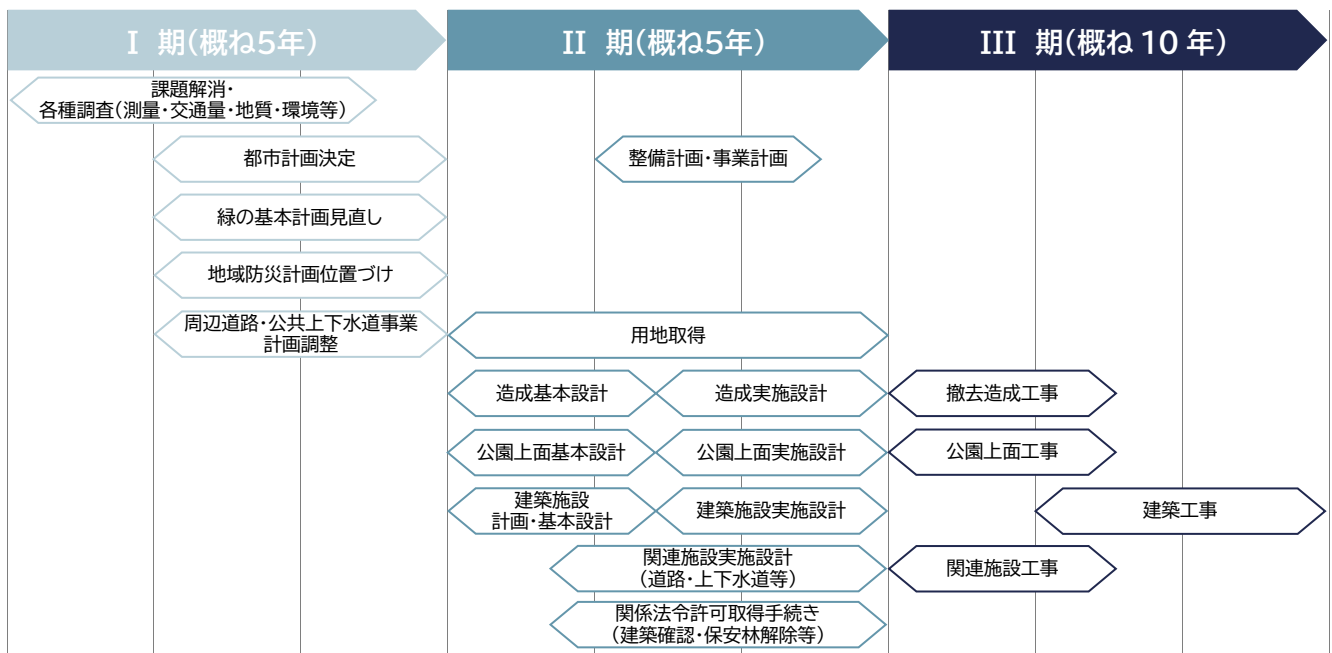


図-2 事業スケジュール

基本計画平面図 S=1:2500

